

AXIES-2022

**研究データマネジメント部会
企画セッション**

第2セッション 10:45-12:15 @ E会場



会場での諸注意事項（セッション用）

※セッション開始時に読み上げ、徹底をお願いしてください

- ① 座席数は会場のガイドラインに基づき設置しています。 ※1テーブル3人掛け満席でもガイドライン上は問題ありませんが、出来るだけ間隔をあけてお座りください。
- ② 会場内では常にマスクの着用をお願いします。
- ③ 発表もしくは質疑応答以外での発言や参加者同士の会話はご遠慮ください。
- ④ 会場内での飲食はご遠慮ください。
- ⑤ 会場で質問の有る方はマイクスタンドまでお越しいただき、**マイクは持たずに**発言をお願いします。
質問用マイクのスイッチは常にONにしておきます。
- ⑥ 会場内の参加者の方がWebexへ接続する場合は、PCのマイク・スピーカーは必ずOFFにしてください（ハウリング防止）
- ⑦ リモート参加の方は、質問時以外はカメラ・マイクともOFFとしてください。質問は、音声（またはチャット）にてお寄せください。
- ⑧ 会場は常に換気をしています。状況によって入口ドアを開放する場合がございます。

AXIES2022 RDM企画セッション2

大学における研究データの利活用を支える 最先端 ストレージソリューション

渥美 紀寿 (AXIES RDM部会副査 / 京都大学)

脇 昌弘 (AXIES RDM部会副査 / ネットアップ合同会社)



企画セッション2の内容



司会/趣旨説明：脇 昌弘（ネットアップ合同会社）

「大学における研究データの利活用を支える最先端ストレージソリューション」

1. 渥美 紀寿（京都大学）

「京都大学におけるRDM基盤の構築・運用に関する課題」

2. 櫻田武嗣（アマゾンウェブサービスジャパン合同会社）

「研究データの活用・共有・公開・長期保存に向けたAWSの活用」

3. 神原 豊彦（ネットアップ合同会社）

「研究データの“受益者負担”を実現する マルチテナントストレージ技術」

4. 前川和也、矢萩陽一（エクイニクス・ジャパン株式会社）

「データ利活用時代におけるハイブリッドクラウド最適解」

※クロージング

- 全公演が終わった後、質疑応答の時間を設けます。

「大学における研究データの利活用を支える 最先端ストレージソリューション」

趣旨説明：脇 昌弘（ネットアップ合同会社）

ポリシー・提言・ガイドライン発信

大学における
研究データガバナンス
を考える
企画セッション1

実行フェーズを支える技術・ソリューション

大学における研究データの
利活用を支える最先端
ストレージソリューション
企画セッション2

「大学における研究データの利活用を支える 最先端ストレージソリューション」

背景

研究活動における研究データの役割が増すにつれ、信頼性のある研究データの適切な管理・利活用促進のため、研究データの管理・利活用を支える環境整備が喫緊の課題となっている。そのベースとなる共有ストレージについては、最新の情報をアップデートする必要がある

今回の企画趣旨

IT部門の運用・管理負担の軽減を視野に入れたマネージドサービスとしての従量課金型のストレージやパブリッククラウドで提供される先進的な技術機能をこれまで以上に迅速かつ有効に利用できるようハイブリッドクラウドやマルチクラウドアーキテクチャを視野に入れたストレージについて最新アップデートの機会を設ける

データサイエンスに係る各国の取組

令和4年2月10日
情報委員会（第23回）
資料3-1より

【EU】

・ 欧州オープンサイエンスクラウド（EOSC）

効果的なオープンサイエンス移行の加速、支援を目的とし、サービス・システムへの信頼度の高いアクセスや、分野、社会、地理的境界を越えて共有される研究データの再利用を可能とするための基盤を構築。

・ 欧州データ戦略（A European strategy for data）

「データの単一市場」である「欧州データ空間」構築を目指す。独仏が主導する産業界の欧州統合データ基盤プロジェクト「GAIA-X」とのシナジーも重視

【ドイツ】

・ ドイツ研究データインフラストラクチャ(NFDI)構築

研究データを共通基盤に集積する構想に毎年9,000万€(2020-2029)の投資を計画しており、研究データの収集、作成、分析等の学際的な研究データ・ライフサイクルのすべてのをサポートする「NFDIデータサイエンス・人工知能」の支援を決定。

・ データ統合シミュレーションの研究開発を実施

第1期は工学的アプローチからのモデル化などを実施(5年x2 合計約6,500万€)、第2期ではさらに大容量データやセンサー計測の取り扱い、データ解析手法の開発などを進め、統合システム科学に発展させる(1期7年 600万€/年 = 予定) 応用分野は、環境、健康、製造業など

【英国】

・ 英国研究・イノベーション機構（UKRI）のオープンアクセス・ポリシーを策定し、**研究データを含む研究成果のオープン化を推進**

【中国】

・ デジタルインフラ整備への大規模投資

5G、IoT、AI、科学イノベーション施設等が対象で、追加投資額は2025年までに約10兆元（約150兆円、約1兆ドル規模）。

【フランス】

・ 新たな組織、基盤等の体制を整備

国立研究機構（ANR）が研究データ公開、共有等の推進のためデジタル戦略・データ部門を創設。また、研究データの共有、公開の促進のため国家研究データプラットフォーム（Recherche Data Gouv）を2022年第1 四半期までに構築することを計画。

・ データサイエンスに係る投資

研究とイノベーションのための包括的で全国規模のeインフラの構築に2億2400万€を配分。また、大学のデジタル化に合計5600万€を投資

【米国】

・ 7500万\$を投じ、5つの**データ駆動型科学の研究拠点を設立**

研究データ基盤の現状

日本の研究データ基盤は2020年度に運用を開始したが、
研究開発経費は世界に比して極めて低い



“By 2020, we want all European researchers to be able to deposit, access and analyze European scientific data through a **European Open Science Cloud**...”
(Speech by Commissioner Carlos Moedas in 2016)



(各国の研究データ基盤関連開発経費より算出) [million USD/year]

・ 世界各国は2010年代よりデータ駆動型研究基盤開発に投資し、最近ではオープンサイエンス実現に向けた基盤を整備

先進各国の技術・事例に学びながら、いいところ取りをした研究データ利活用基盤構築ができる絶好の機会！